
バカとテストと観測者

ゴードン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと観測者

【Nコード】

N0137Z

【作者名】

ゴードン

【あらすじ】

世界の崩壊を防ぐためパラレルワールドの世界から『未来日記』を持ってやって来た少年探偵『秋瀬或』。狂った因果の行きつく先は……！？

【Prologue 1：作られた観測者】（前書き）

バカテスと未来日記（秋瀬君）のクロスですね。

秋瀬君が個人的に好きなので活躍させようと思います。

【Prologue 1：作られた観測者】

- s i d e 秋瀬或 -

「20XX / 6 / 1」

僕の名前は秋瀬或。世界的な探偵を目指している。数日前、僕は
このところ桜見市を騒がすいくつかの事件について一つの発見をし
たのだった。

「天野雪輝……か」

その名前はすべての事件に関わっている少年の名前。

「……………！」

と、その時。僕の前に1つの渦のようなものが現れ、僕は吸い込
まれてしまった……！

〔第一因果律大聖堂〕

「来たか、秋瀬或……」

「……あなたは？」

「私はパラレルワールドのデウス・エクス・マキナ……いや、その
思念体といった正しいか……。時間と空間の神で、お前を作り出し
た存在だ」

「僕を……、作り出した？」

「ああ、お前は変動し続ける未来を観測するため作られた観測者だ」

じゃあ、今まで僕がやっていたことは何だったんだ……。

「なんで僕をこんなところに？」

「この世界の崩壊を防ぐためだ」

世界の崩壊？ それと僕に何の関係があるって言うんだ。

「お前は本来、この世界のストッパーとしていたべき存在だった。だが不正に世界に干渉してくる者の手によってこの世界のお前は消滅してしまった」

「だから並行世界の僕を呼び出したというわけですか？」

「だが、お前が元いた世界は存在しない。だから、別の並行世界に行ってもらうことになる」

じゃあ、桜見市も存在しないというわけだ。誰が世界の理を崩したんだろう？

「すまない……。私の力不足でこんなことに……」

「いえ……やり残したことも多々ありますけど、でもこの謎も解いてみたいですね。……ですが」

「何だ？」

「依頼人として報酬がほしいところです」

「ふっ……、それなら問題ない。自分の携帯をしてみる」

「……？」

パカッと携帯を開いて中を確認する。

「なっ……！」

『8：00 〔第一因果律大聖堂〕

僕は未来日記の力を手に入れ、並行世界に行く。

X：X X 〔並行世界 自宅〕

並行世界の僕の家はアパートのようだ。
生活用品などはそろっている。

X：X X 〔並行世界 自宅〕

この世界の僕は高校生だったようだ。
だが、学校には通っていないみたいだね。

□

「これは……！」

「お前の周りとお前自身の未来を告げる未来日記、『観測日記』だ。
これさえあればお前は世界を調律が可能になる。あと、並行世界の
人間には未来日記は見えん」

その時、僕の頭の中にブツッと大量の情報が入って来た。これは

……、何かの記憶……？

「心配ない。並行世界のお前の記憶を転送しただけだ。そろそろ、崩壊が始まる。早く行け」

「……最後に1ついいですか？」

「何だ……？」

「僕が今までやっていたことは誰の意思だったんですか……？」

「ふっ……。お前の意思だ」

その時、周りに光が現れ僕はどこかに転送された。

【Prologue1：作られた観測者】（後書き）

【観測日記】

自分自身とその周りの未来を予知する日記。

簡単にいえば『無差別日記』と『雪輝日記』の両方の性質をもつ未来日記。

秋瀬或はこれを使うことによって並行世界の調律ができる。

【Prologue 2：介入の始まり】

- s i d e 秋瀬或 -

「20XX / 3 / 27」〔並行世界 秋瀬或宅〕

時間と空間の狭間をぐぐりぬけて、並行世界に行くと、

「うわつとー！」

ベツトに落ちた。どうやらここが僕の家のような。

「へえ……、随分と家具は揃ってるね。父さんと母さんはいないのか……」

並行世界だしね、なんて言っていたら携帯がなった。どうやらあの神様からメールらしい。

【from デウス・エクス・マキナ】

どうやら無事に並行世界に着くことができたようだな。早速で悪いんだがお前は因果律の中心である文月学園に編入してくる生徒ということになっている。年齢は上げておいたから高校二年生ということになる。その学校の制度はパソコンに入れておいた。こちらは因果律の修復と改変があるから返信は今度にしてくれ。後は好きなようにやってくれ。

「年齢を上げるなんて流石は神って所ですね……」

それにしても学校の制度ねえ……。そういえば日記は……？

『4：00 「自宅」

この世界の僕は高校生だったようだ。

だが、学校には通ってないみたいだね。

4：04 「自宅」

どうやら僕が通うことになる学校は文月学園というらしい。

振り分け試験なるものは3/28に行われるらしい。』

「振り分け試験ねえ……。何でそんなものを？ とりあえず確認してみよう」

パソコンの前の椅子に座り、電源を入れる。

「えっと……。あつたあつた。このフォルダだ」

そこには『並行世界データ』というフォルダがあった。

どうやら、文月学園はテストの点数という物に上限というものがないらしい。制限時間の中で無制限の問題が用意されており、能力次第でいくらかでも点数を伸ばすことができる。そして極め付けが『試験召喚システム』というもの。テストの点数に応じた強さを持つ『召喚獣』を行使して戦うシステム。

そして生徒の勉強に対するモチベーションを高めるために提案さ

れた先進的な試み。それが『召喚獣』を使って行うクラス単位の戦争、試験召喚戦争。それは勝つとそのクラスと設備を入れ替えることのできるというシステムだ。

文月学園には成績順にA〜Fにクラスが分けられていて、上位クラスになるほど設備が良く、下位クラスになるほど設備が悪い。そして下位クラスは上位クラスに勝って設備を奪うために、上位クラスは設備を守るために勉強する。そうやって生徒のモチベーションを高めるのだ。

「随分と残酷なシステムだね。いい設備の方がいいし、こりゃ今夜は一夜漬けかな？」

これらのことを考えるとこの世界の主軸はどう考えても最下位クラスのFだけど、そこに飛び込むほどバカじゃないしね。

「んじゃ、勉強頑張ろうかな」

「20XX / 3 / 28」 「文月学園2 C教室」

時と場所が飛んで今は振り分け試験中。あれ？ 誰に説明してるんだ僕は。

「（流石は試験校って所だね……。結構難しいや）」

元は中学生だけど探偵だからね。勉強を怠ったことはないよ。

「（……そつえばあの神様は未来日記は並行世界の人間には見え

ないって言ってたけど……」

携帯を開いて机の上に置いてみる。だけど試験監督は素通り。

「（本当に見えないのか……！ あれ？ 日記になにか書いてある）」

『10:32 「文月学園2 C教室」

試験科目は現代国語。解答は、

？（1）向日葵

（2）堇

（3）山茶花

（4）蒲公英

（5）胡桃

』

「（……これじゃ勉強した意味がないような……）」

未来日記を使うのは流石に卑怯だと思ったので使わないでテストを解いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0137z/>

バカとテストと観測者

2011年11月30日22時48分発行